

病院図書室ネットワークにおける 総合目録の役割と今後

川野眞樹¹⁾，春日井泉江²⁾

¹⁾ 京都第二赤十字病院図書室，²⁾ 名古屋記念病院図書室

I. はじめに

近畿病院図書室協議会（病図協）では、1974年の設立当初より相互貸借活動（ILL）を推進している。そのためのツールとして総合目録の発行を続け、現在は、複数の図書室ネットワークが参加する総合目録・ILLシステムの「Medical Library Network : KITOcat」（<https://www.melin.jp/>）でWeb版目録を運用している。病図協の総合目録の変遷とILLの変化をもとに、病院図書室ネットワークにおける総合目録の役割を考察する。

II. 総合目録とILL

1981年に発行した最初の総合目録より以降、改訂を繰り返し、2006年にはWeb版を稼働し、2013年にKITOcatに移行した。KITOcatには現在、近畿病院図書室協議会、東海地区医学図書館協議会、中国四国九州医学図書室ネットワーク、福島県医療機関図書室協議会の4つのネットワークが参加している。複数ネットワークがシステムを共同利用することで、目録の収録タイトル数が増え、ILL依頼先の選択肢も増えた。

総合目録の規模の拡大が、ネットワーク内での文献自給率の向上に繋がると予想していたが、病図協の統計調査によれば最近10年の自給率は20%前後で推移しており、影響は見られない。その理由として以下の3点が考えられる。

- ・病院図書室ネットワーク内で入手できる文献に限りがある
- ・ILL以外の入手手段（文献手配業者等）を通常利用している会員がいる
- ・複数の総合目録（東海目録，中四九目録，日赤医学雑誌総合目録，NACSIS-CAT/ILL等）に参加する会員が増え，文献入手先が病図協内に限定されなくなった

III. 考察

病院図書室ネットワークの総合目録は、ネットワーク内でのILLで一定の役割を果たしてきたが、現状では文献自給率の向上には繋がっていない。そこで、今後について以下の可能性を考える。

- ・KITOcatの参加ネットワーク同士で連携を深め，システムの共同利用に留まらない，相互協力活動の推進を図る
- ・全ての図書室がNACSIS-CAT/ILLに参加し，1つの総合目録に統一する
- ・総合目録を別の媒体（ネットワークの掲示板やML等）と組み合わせて運用し，未収録の所蔵情報へも繋げる
- ・Web版目録から，リポジトリや無料のフルテキストリンクへ繋げる